ISSN 1884-7730

安曇野ちひろ美術館
美術館だより

No.84
2015.9.14

ちひろを語るこの一点「ぶどうを持つ少女」の魅力

●2015年9月26日(土) ～11月30日(月)

ちひろの代表作のひとつである「ぶどうを持つ少女」(図1)。この作品は、自身の集大成となる絵本『ぽちのきたうみ』(図2)や『戦火のなかの子どもたち』を手がけるなど、画家として円熟期を迎えた1973年に、絵雑誌「こどものせかい」のために描かれました。同年、有島武郎の童話「一房のぶどう」の挿絵の仕事で、ぶどうを持つ女教師を描いています。これも本作が誕生するきっかけになったと考えられます。

現存する約9450点の作品のなかでも、高い人気を誇るこの作品にはどのような特徴があるのでしょうか。本展では、この一点を手がかりに、ちひろの表現を掘り下げます。

「ちひろの紫」

つば広帽子とぶどうを持つ少女の横顔が描かれたこの作品でまず目を引くのは、紫の豊かな色調です。赤と青の2色からつくられる紫は、各色の割合を変えることで、幅広い色調を表現できる色彩です。

1968年に、ちひろは絵本『あめのひのおるすばん』の制作のなかで、画材別の紫の色味の違いや、ポスターカラーやインクと水彩とのにじみ具合を追求する試し塗り(図3)を行いました。本作でも、赤紫の帽子の上に、青紫のリボンを重ね合わせたり、ぶどう一粒一粒の色味や濃淡を変化させ、紫一色のなかに、豊かなバリエーションを生み出しています。

「帽子」

若い頃から、帽子はちひろのおしゃれのアイテムでした。作品のなかにも帽子が多く登場し、1970年代には、バラ飾りのある帽子(図4)やニット帽なども描いています。ちひろが特に好んだのがつば広帽子でした。愛用した帽子のなかにも、夏用のつば広帽子が残されています。大きなつば広帽子の女性らしく優美なフォルムも、この作品の魅力のひとつです。

「横顔」

正面を向いた愛らしい表情(図5)とは異なり、ちひろの描く横顔の多くは、もの思う独特の雰囲気を湛えています。「子どもを描いていると、自分の小さいときのことを自分で描いているという感じがします」と語っていたちひろは、少女時代の瑞々しい感性を持ち続けた稀有な画家でした。また、子育てを通し、わが子の成長を見守ってきた母親でもありました。そんなちひろの描く「子ども」は、大人の考える子ども像ではなく、感情や意志、個性を持った存在として描かれています。微笑にも、憂いを帯びているようにも感じられる横顔からは、少女特有の繊細な感性が感じられます。

「省略の美学」

少女の周りには、余白がたっぷりと取られ、少女の服や背景は描かれていません。1973年に手がけた絵本のダミーに、ちひろは、持ち得る技巧をあえて隠すことで、より深い感銘を生み出すことを目指し、「捨業(すてわざ)」「惜墨(せきぼく)」の文字を記しました。ちひろが「引き算」と呼んだこの表現は、見るものの想像や思いを受け止める余地を生み出しています。

必要最小限のもので構成された画面には、ちひろが築き上げてきた技法と子どもへの深い思いが秘められています。すでに体調を崩し、入退院を繰り返していた時期に生まれた本作は、生涯にわたり子どもを描き続けたちひろが、最晩年に表現した渾身の一点となっています。

(宍倉恵美子)

〈企画展〉『はしれ、トト！』조은영(チョ ウンヨン)の絵本づくり展

●2015年9月26日(土) ～11月30日(月)

後援:(一社)日本国際児童図書評議会

韓国の女性画家チョ・ウンヨンの絵本『はしれ、トト！』にフォーカスした展示を開催します。この本は、おじいさんと競馬場に初めて行く馬好きな女の子の一日を描いたチョのデビュー作です。絵本の制作を開始したのが2004年、本が出版されたのが2010年、途中に休みをはさみつつも実に約6年の歳月をかけ、2011年に、ブラティスラヴァ世界絵本原画展でグランプリを受賞し、日本では翻訳版が日本絵本賞を受賞しています。本展では完成された絵本を見ただけでは分からない、さまざまな試行錯誤の積み重ねが結晶した1冊の魅力を、絵本の形から離れて分解して紹介します。

おじさんたち+馬=競馬場?

従来の絵本の既成概念にとらわれず、自分のスタイルで絵本を描きたいと考えていたチョは、大学の授業で初めて訪れた競馬場のことが忘れられず、競馬場を題材にした絵本制作を2004年に企画しました。競馬がある週末ごとに競馬場に足を運び、望遠レンズを用いて撮った多数の写真を参考に、さまざま表情や状況の人物を描きます。チョの鋭い目と容赦ない描写で捉えた実物以上にグロテスクな「おじさんたち」には、感情や性格まで滲み出てくるようで迫力や味わいがあります(図1,2,3)。セリフは無いものの、彼らは競馬場の名脇役です。

絵本には馬も、もちろん登場します。チョの描く馬たちには、それぞれどこか人間のような個性が感じられます(図4)。

アクリル、木炭、墨……

『はしれ、トト！』で、チョは自由にいくつもの技法やスタイルを混ぜて表現しており、競馬場の雰囲気やレースのようすが躍動感をもって伝わってきます。馬を表すのに、紙に墨一色でシンプルに描いたり(図5)、クラフト紙に木炭と白いコンテで描いたり(図6)、ときには、いくつもの絵を重ねて一つの場面を構成したりしています。

この迫力のある、レースの場面は、馬や騎手を個々にOHPで使う透明フィルムの上に描き、それらをスキャニングして合成し、更に墨を歯ブラシやストローで吹いたもので、弾ける砂を表現し、スピード感や緊張感が出ています(図7)。

スケッチ×ストーリーボード×ストーリー

チョは、絵本を組み立てるために、ストーリーボード(絵コンテ)を元にまず、いくつものスケッチを作成しました。人々が競馬場に行き、帰るまでの状況や、競馬賭博のイメージなどを自由に描いた後、それらを縮小して壁に並べて貼り、取捨選択してストーリーを考えていったといいます(図8)。その後文章を書き、ストーリーボードを数度書き直して最終的な構成ができあがりました。

1冊の絵本の背景にある膨大な写真、スケッチ、習作、ダミー、資料……。34歳で二児の母であるチョの小柄な体の一体どこに、これだけのパワーが秘められているのかと思うほど、その作品は見る者を圧倒します。今後の活躍が期待されるチョの描く世界をお楽しみください。

(松方路子)

●展示室1・2

図1　ぶどうを持つ少女　1973年

図2　海とふたりの子ども　『ぽちのきたうみ』（至光社）より　1973年

図3　『あめのひのおるすばん』試し塗り　1968年

図4　バラ飾りの帽子の少女　1971年

図5　白い毛糸帽の子ども　1970年

ゆびきりをする子ども　1966年

●展示室3・4

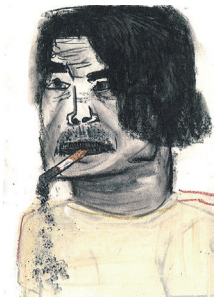


図1

図4

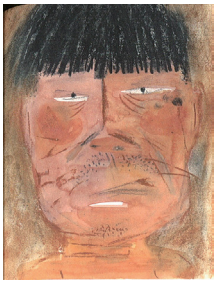


図2

図5

図7

図3

図6

図8

図1～7　チョ・ウンヨン『はしれ、トト！』（文化出版局）より　2010年

図8　チョの描いたイメージスケッチ

ちひろ美術館コレクション　10人の絵本画家　10の絵本づくり

●2015年9月26日(土) ～11月30日(月)

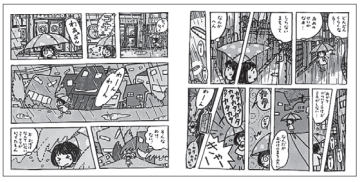
ユーリー・ノルシュテイン
＆フランチェスカ・ヤールブソワ

映画監督のノルシュテインと彼の妻であり美術監督のフランチェスカが手がけた絵本は、アニメーションとして発表した作品をもとに制作されました。彼は「絵本の空間は、読者が絵を目で追っていく。それが時間を生み出し空間を生み出す」と語り、人が頁を繰ることによって生まれる時間の重なりを絵本の本質と捉えました。『きつねとうさぎ』(図１)はうさぎがきつねに奪われた家を取り戻そうと奮闘するロシア民話。場面ごとに変化する背景は、うさぎの感情や季節の変化、時間の経過を表現しています。

(図１)『きつねとうさぎ』より
2003年　(ロシア)

武田美穂

武田の絵本は、漫画を思わせるコマ割りが特徴のひとつです。武田は、映画監督の父親の影響で幼いころから絵コンテを見ていたことで、場面割りやアングルの知識が自然と身に付いたといいます。雨の夜、迷子になった少女の物語『ますだくんとまいごのみほちゃん』では、頁ごとにコマ割りの数や大きさを巧みに使い分け、少女の心の機微を表わしています。少女が道に迷う場面（図２）では、徐々に不安を大きくする少女のようす、知らない街が「おばけのまち」へと変化するようすを、小さく区切ったコマで細やかに捉え、少女の心の動きを繊細に描き出しました。



(図２)『ますだくんとまいごのみほちゃん』より　1997年

赤羽末吉

赤羽は絵本づくりについて「主題を生かそうと努力していると、一つの考えが生まれ、それにともなって適切な型が生まれる」と語り、それぞれの物語を深く読み込んで描き方や画材を使い分け、視覚的なドラマを追求し続けた画家でした。1976年の『ほしになったりゅうのきば』は、勇敢な少年が竜に裂かれた天を縫いに行くという中国の民話で、水墨画風の絵でつくり上げた1963年の旧版を、“壮大華麗な大ロマン”という解釈で描きなおしたもの。画家は、複数のダミーを使って全体の構成を検討し、山場である仙人境の場面（図３）を、あえて色を抑えた白描で描くことによって前後の華麗な彩色を施した場面との違いを明確化し、仙人の住む不思議な世界を印象的に表しました。

(図３)『ほしになったりゅうのきば』より
1975－1976年

本展では、他にエリック・カール、長新太、クヴィエタ・パツォウスカー、谷内こうた、西村繁男、エリック・バトゥー、ヤナ・キセロヴァーを加えた10人の絵本画家を選び、十人十色の絵本づくりを紹介します。　(長井瑶子)

7月4日(土)　報道写真家・石川文洋　平和を語る

報道写真家として、ベトナム戦争や沖縄の状況を伝えてきた石川文洋さんのドキュメンタリー映画『石川文洋を旅する』の上映と講演会を開催（松川村９条の会共催)。故郷である沖縄、そして戦場での体験についてお話を伺いました。

「非戦70年というが、日本は基地を提供することでベトナム戦争に加担していたことは確かだ」「フェンスを張り巡らされた今の沖縄が、かつてのベトナムと重なる。戦争に巻き込まれるのは民間人。今の日本にはその危険性があるのではないか」「生きていれば、きっとそれぞれにいろんな人生や夢があったはず。戦争によって、大切な命のつながりを絶やしてはいけない」。

穏やかな口調で語る現在77歳の石川さん。しかし、そのことばからは、死と隣り合わせの状況でたくさんの命と向き合ってきた戦場カメラマンだからこその、強い思いが伝わってきました。「ベトナムと沖縄は、私にとって一生のテーマ。体が動く限り、撮影を続けていきたい」と語る姿から、信念を感じました。そして、わたしたちがちひろの作品を通して“子どものしあわせと平和”を伝えることの責任を改めて実感しました。(畔柳彩世)

7月11日(土)　トットちゃん広場オープン・プレイベント　トットちゃんのリトミック体験

７月のトットちゃんイベントは、トットちゃんが大好きだったトモエ学園での授業「リトミック」を、美術館の多目的ギャラリーで行いました。音楽を、耳でなく“心で聞き､感じる”ことを大切にしたリトミック。今回は子どもの発達段階に合わせて、２～３歳、４～６歳、小学校低学年と、３つのクラスに分け親子一緒に楽しみました。先生の演奏にあわせて、裸足でスキップしたり、皆で積み上げた積み木と同じ形を体で表現したり。心で感じた音楽を、体で自由に表現した子どもたちは、まさにトットちゃんそのもの。会場は､子どもたちの笑顔とにぎやかな足音に包まれました。　(松澤理佳)

7月29日(水)～8月16日(日)　中学生ボランティア

今年の中学生ボランティアの活動は、いわさきちひろ×佐藤卓＝展に関連したワークショップのサポートと、安曇野ちひろ美術館ガイドツアーの２本柱でした。

人前で話すこと、伝えること、コミュニケーションをとることの、楽しさと難しさを実感した中学生たちですが、参加者からの「ありがとう」の一言が彼らを確実に成長させていました。(松澤理佳)

①　②　③　④

①「ちひろの絵と箱（ハコ）ラボレーション」製作中。②完成作品のひとつ。完成後は、中学生が進行役となり参加者全員で発表会も。それぞれの箱にストーリーがあり、毎回楽しい発表会になりました。③額装にも挑戦。「ちひろの線とコラボレーション」の投稿作品から、作品を選び、額装し、展示をするという裏方作業もボランティアの仕事。④ガイドツアーでは、クイズを交えながら、美術館の豆知識や、佐藤卓展の解説などを伝えました。

ちひろを訪ねる旅⑲

目黒区中目黒 ―ちひろと向田邦子が住んだ町

1919年１月、日露戦争に出兵していた父・正勝が復員し、母・文江は単身赴任先の武生の女学校を辞職、４月に一家は東京府下渋谷の道玄坂に家を借り、生後４か月のいわさきちひろと親子三人の生活がはじまりました。以降、渋谷区の四反町、向山町と転居し、1933年に目黒区中目黒３丁目（現、５丁目）、祐天寺の東側に転居します。ちひろが第六高等女学校３年生の頃です。それから1940年に中野区鍋谷横丁の南に、借地権付き住宅を買うまでの８年間、岩崎家は中目黒の住人でした。

同じ中目黒３丁目に、転勤族であった父親の仕事の関係で、後の作家・向田邦子の一家が転居して来るのが、1937年７月11日。邦子が６歳、小学校１年生の時のことです。ふたりの家は歩いてわずかの距離。ふたりが町角で出会っていたとしても不思議はありません。

今でこそ、お花見スポットとして知られ、洒落たカフェやインテリアショップが並ぶ中目黒界隈も、当時は郊外の新興住宅地。当時の目黒は、中野や世田谷同様に、第一次世界大戦後、急激な人口流入が続く帝都東京でその受け皿として宅地化が進められていました。

ちひろと向田邦子は11歳違い。無論、面識はありませんでしたが、共に勤め人の父親を持つ新興市民層の家庭で、三人姉妹、三人姉弟のしっかり者の長女として、料理や家事万端を躾けられ、母親に頼りにされる存在でした。向田作品には、ちひろの家も同様だったであろうと思わせる、古き良き時代の丁寧な暮らしぶりが見事に描かれています。

向田家は、1937年９月に下目黒４丁目に引っ越しますが、きっかけは中目黒３丁目の隣家で、些細な夫婦喧嘩から、歯科医をしていた夫が妻を死に至らしめるという事件が起こったから、と向田はエッセイ「隣りの匂い」に書いています。同じ町内で起ったセンセーショナルな大事件です。三人姉妹がいる岩崎家でも、さぞや話題になったことでしょう。

（竹迫祐子）

ひとことふたことみこと

6月13日（土）
どうしても一度この目で見ておきたいとねがっていました。ちひろさんの想いを身に染みて感じることができると信じて、静岡から息子に連れて来てもらいました。素晴らしい作品を目にし、ちひろさんの心に感動いたしました。涙がいっぱい出てしまいました。思いがかなった今日、嬉しく感謝でした。　（ちなみに私、92歳）

6月22日（月）
ちひろさんが反戦に対して強い気持ちをもっていらしたことを、絵や文を拝見して再認識いたしました。今もお元気なら何とおっしゃるかしらと思わず考えてしまいました。たおやかな絵、やさしいまなざし大好きです。
（あずみのに住んで15年）

7月3日（金）
戦後70年の特別企画展にどうしても来たくて来ました。ＤＶＤも見れたし、いろんな戦争と平和の絵本にも出会えてよかったです。ちひろさんと一緒にこれからも「平和」を守っていきたい。

7月11日（土）
昔、母からいわさきちひろのポストカードをもらい、ずっと部屋に貼っていました。結婚して家を出て私も母になり、ふと立ち寄ってみました。

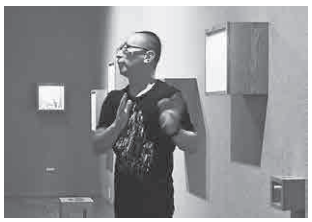
7月30日（木）
私はちひろさんの絵をお手本に絵を描いています。ちひろさんの絵は何回見てもあきない。また見たいと思う絵です。（９才 阿部ほの）

7月31日（金）
とても自由で不思議な美術館。スタッフの方の説明のなかで、「絵を見なくてもよい美術館」というフレーズが気に入りました。あと、ちひろ美術館のロゴマークの意味を教えていただいて、この美術館が好きになりました！また来ます。
（京都・綾子☆）

8月21日（金）
ちひろさんが、生後１ヵ月半の猛さんに会いに、美術館があるこの地に長い時間をかけて来て、涙にくれながら東京の自宅に帰っていくというのが共感できました。
今まで何となくちひろさんの絵は好きでしたが、深い愛情が、見る人に伝わるからだなと改めて思います。今日は９歳の息子を家において外泊しているので、早く帰って抱きしめてあげたいと思います。
（愛知県高浜市　聡子）

美術館日記

7月17日（金）
いよいよ「はじめてみる、ちひろの世界。いわさきちひろ×佐藤卓＝展」がスタート。今日は本展プロデューサーの佐藤卓さん自ら、報道関係者向けに展覧会のみどころをご案内。ブログやフェイスブックなどのアカウントをお持ちの方たちを特別にお招きし、初の試みであるブロガー鑑賞会も同時に開催した。今日のようすがどんな記事になるのかが楽しみ。



7月19日（日）
例年より２日ほど早く梅雨が明けた。今日と明日は、特別に８時から開館する朝のミュージアムを開催。９時からは朝日が差し込むテラスで絵本の読み聞かせを行った。そのままカフェでモーニングセットを頼まれ、さわやかな朝の時間を、ゆったりと過ごされるご家族も。

7月24日（金）
安曇野ちひろ公園の工事起工式が行われる。トットちゃんの電車２両も改めてお披露目された。これからいよいよ本格的に拡充整備のための工事が始まり、来夏のオープンを目指す。来年の今ごろは、トットちゃん広場や体験農園などができあがり、お客さまをお迎えしていると思うと、期待に胸が膨らむ。

8月1日（土）
梅雨明け以来、長らく晴天が続いている。絵本カフェでは、数量限定の水出しアイスコーヒーが人気。フルーティーな香りが特徴の有機栽培のグァテマラ豆を、北アルプスの伏流水で一晩寝かせて出したアイスコーヒーは、えぐみが少なく、すっきりとした味わい。「こう暑いとたまらないね」という男性も、ぐびぐびと飲み干して笑顔に。

8月10日（月）
地元の中学校と小学校の先生２名の教員10年目研修を行う。研修では、ワークショップの見学に加え、開館前の展示室の照明交換作業から、受付やショップフロアでのお客さまの対応まで、美術館スタッフの業務にも携わる。慣れない仕事に、一所懸命汗をして働く先生方の姿に、私たちスタッフも気が引き締まる思い。

INFORMATION

安曇野ちひろ美術館　イベント予定

各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。
詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。 http://www.chihiro.jp/　TEL. 0261-62-0772　FAX 0261-62-0774
https://www.facebook.com/chihiro.azumino

●『はしれ、トト！』조은영（チョウンヨン）の絵本づくり展 関連イベント
おはなしの会：チョ・ウンヨンと絵本を楽しもう

出展中の絵本『はしれ、トト！』の著者本人による読み聞かせや、本作の翻訳者・広松由希子さんによる翻訳版ができるまでの興味深い裏ばなしもご紹介します。

チョ・ウンヨン ©Kim Sun-a

○日　時：10月10日（土）、11日（日）
　　各日11：00〜12：00
○料　金：無料（入館料別）
○申込方法：不要（参加自由）

広松由希子

編集者、文庫主宰、ちひろ美術館学芸部長を経てフリーに。絵本、評論、創作、翻訳、展示企画などを行う。2010年ボローニャ国際絵本原画展審査員、2013、15年プラティスラヴァ世界絵本原画展審査員、2012-15年ブックスタート選考委員。

●スライドトーク：チョ・ウンヨン 自作を語る

画家本人が、絵本『はしれ、トト！』をつくった背景を、展示された資料や絵の前で語ります（通訳付き）。
○日　時：10月10日（土）14：00〜15：00
○料　金：無料（入館料別）
○申込方法：不要（参加自由）

●チョ・ウンヨンによるワークショップ

画家本人から絵本のつくり方についての話を聞き、絵本に使われた技法を体験しながら、自分の作品を制作します。どなたでもお楽しみいただけるワークショップです。
○日　時：10月11日（日）13：00〜15：00（予定）
○料　金：500円（入館料別）
○定　員：30名（予定）
○申込方法：要事前予約（ちひろ美術館 HP、TEL.0261−62−0772）

●夜のミュージアムを楽しむ

10月17日（土）は、特別に21：00まで開館延長し、毎年好評の、安曇野寄席を開催。星や月をモチーフにしたファッションでご来館の方には、カフェでドリンクをサービス。ライトアップされた夜の美術館をお楽しみください。

●ちひろ美術館に来ましょ！ 松川村お嫁さんデー

10月20日（火）は、日頃忙しく働く松川村のお嫁さんを、特別に、安曇野ちひろ美術館へご招待。入館無料、１ドリンクサービスです。

●『窓ぎわのトットちゃん』（講談社文庫）が新組版で登場 ！

1981年、黒柳徹子（ちひろ美術館館長）が、子ども時代のことをつづった自伝的物語『窓ぎわのトットちゃん』は、戦後70年最大のベストセラーです。今回、文字が大きく読みやすく、ちひろの絵も最新印刷で美しくよみがえった新組版ができました。定価：760円（税別）

●安曇野スタイル2015
あかちゃんのための 初めての贈りもの

ちひろ美術館は、生まれて初めて訪れる美術館―ファーストミュージアムとして、あかちゃんも楽しめる美術館です。今年の安曇野スタイルでは、子ども椅子、スプーン、絵本など、心をこめてつくられた「あかちゃんのための贈りもの」を紹介し、販売します。

○日　時：10月30日（金）〜11月３日（火・祝）
　　9：00〜17：00
○会　場：安曇野ちひろ美術館

＜関連イベント＞
○わらべうたあそび
○日　時：10月31日（土）
　　10：30〜11：00／13：00〜13：30
○講　師：杉田祐香（０〜２歳対象）
○おはなしの会
○日　時：11月１日（日）
　　10：30〜11：00（あかちゃん向け）
　　13：00〜13：30（全年齢）
いずれも、参加費無料（入館料別）、申し込み不要です。

●2016夏トットちゃん広場オープン・プレイベント

2015年は毎月『窓ぎわのトットちゃん』のエピソードにちなんだイベントを開催。イベント参加者限定のスタンプラリーも行っています。

トットちゃん 電車の教室

○畑の先生・収穫祭
６月にみんなで植え付けたさつまいもを収穫し、焼きいも大会をします。
○日　時：10月25日（日）13：30〜15：30
○参加費：一人500円（要申し込み）

○自然で遊ぼう！ワークショップ
造形作家の川村忠晴氏を講師に迎え、拾ってきた葉っぱや木の実などを使って、自分だけのオリジナル作品をつくります。
○日　時：11月８日（日）13：30〜15：30
○参加費：一人500円

●おはなしの会

毎月第２・４土曜日
11：00〜
参加自由、入館料のみ

●ギャラリートーク

毎月第２・４土曜日
参加自由、入館料のみ
14：00〜ちひろ展
14：30〜世界の絵本画家展または企画展

●開館情報

安曇野ちひろ美術館は、12月１日〜2016年２月29日まで冬期休館となります。2016年は３月１日より開館します。

●2016年 安曇野ちひろ美術館 展示予定　2016年3月1日（火）〜5月9日（月）

〈展示室1.2.4〉その心、花に託して−いわさきちひろの描いた花、花、花
〈展示室3〉ちひろ美術館コレクション　世界の絵本画家が描いた花
〈展示室2〉ちひろの人生　〈展示室5〉絵本の歴史　※展覧会タイトルは、変更になる可能性があります。

CONTENTS　〈展示紹介〉ちひろを語るこの一点　「ぶどうを持つ少女」の魅力／〈企画展〉『はしれ、トト！』조은영（チョ ウン ヨン）の絵本づくり展／ちひろ美術館コレクション　10人の絵本画家　10の絵本づくり…❷❸❹
〈活動報告〉報道写真家・石川文洋　平和を語る／トットちゃんのリトミック体験／中学生ボランティア…❹
ちひろを訪ねる旅59／ひとことふたことみこと／美術館日記…❺

美術館だより　No.84　発行2015年9月14日

安曇野ちひろ美術館
〒399-8501　長野県北安曇郡松川村西原3358-24　テレホンガイド0261-62-0777　TEL.0261-62-0772　Fax 0261-62-0774
http://www.chihiro.jp/　E-mail:chihiroa@seagreen.ocn.ne.jp